

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	カナの家			
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 1日 ~ 令和 7年 12月 26日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	102家族	(回答者数)	82家族
○従業者評価実施期間	令和 7年 12月 1日 ~ 令和 7年 12月 26日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数)	12名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 1月 12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人内に医療機関があり、利用児の担当医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理士と連携しやすい。	必要に応じて利用児の担当と連携し、その子の発達課題に沿った支援を行っている。	多職種が連携できる仕組みを考える。
2	家族・きょうだいが自由に参加できるイベントを行っている。	平日の保育活動時間はいつでも参観に来ていただけるようにしている。また、月に1~2日週末に家族・きょうだいと一緒に参加できる様々なことが体験できるイベントを企画している。	さらに利用児、きょうだいが楽しめるイベントを継続して行っていく。
3	災害の備えを愛徳医療福祉センターとともに行っている。	カナの家は福祉避難所になっている。また、愛徳医療福祉センター全体で防災対策の組織作りを行っており、災害時は協力して動くことができるようになっている。	定期的な訓練を継続して行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者への連絡体制が十分でない。	緊急時は電話にて連絡しているが、災害時の利用児の動きや連絡を入れるタイミングなどの共有が手紙の配布に留まっている。	来年度より、保護者と連絡がとりやすくなるようシステムを導入する。
2	地域とのつながりが十分でない。	カナの家は並行通園であるため、利用児が通っている地域の認定こども園、幼稚園、保育所との連携は必要に応じて行っているが、地域住民の方々との交流は愛徳医療福祉センターが中心で行っている秋祭りやこども食堂以外行っていない。	地域住民の方々との交流できる機会を考えていきたい。
3	職員の専門性の向上をさらに図る必要がある。	定期的に勉強会や外部研修、学会への参加を行っているが、現場への十分な汎化につながっているとは言えない。	研修会等で得た知識が現場で生きるものになるよう、ケース会議を掘り下げるなど取り組んでいく。